

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	姫路医療生活協同組合	代表者	荻野 俊夫	法人・事業所の特徴	「その人らしく気持ちよく生きる」を理念に、在宅で暮らし続けることを医療と介護のサービスで一体的に支えます。事業所はこの春7年目を迎えました。ホールは窓から陽光が入り明るく開放的な空間でゆったりと過ごして頂けます。訪問、通所、宿泊を柔軟に組み合わせ「その人らしさ」を支え続けます。
事業所名	小規模多機能ホーム 野里	管理者	小田 衣織		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	4人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			職員の経験にはバラつきがあるが、職員間の情報共有、ケアの統一等皆で話し合い、日々利用者様と向き合っている事を確認した。	
B. 事業所のしつらえ・環境			今まで来所された事がなかった地域の方もマルシェに参加したことで入りやすくなったのではないかな。	
C. 事業所と地域のかかわり	利用者と地域の中に散歩や買い物支援など出かける機会を増やす。実際の活動を知って頂く機会にもなり利用者の活動性も上がる。	3月に事業所でマルシェを開催できた。出店も含め地域の方にたくさん来て頂け、事業所を知って頂ける機会になった。	イベントに足を運んで地域の方が身近に感じる事ができた。イベントを継続できれば、サービス内容等も知って頂く機会もあり地域の方の安心に繋がると思う。	花見やドライブなどの外出はできるようになってきているが地域を意識した外出を計画し実施していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			コロナも治まり、定期的にドライブや外出ができています。時間が早いが商店街のマルシェにも参加できたら。	訪問サービス時、必要な方には近隣住民や民生委員、自治会の方などと連携し事業所が窓口になれるようお声掛けする。
E. 運営推進会議を活かした取組み			短い時間だがお互いを知るいい機会になっている。マルシェの発案者野里支部長にも2024年度から参加して頂く事となる。	
F. 事業所の防災・災害対策	災害のシュミレーションを何パターンか作りイメージを膨らませ作成している防災・災害対策を更新する。できるだけ具体的に考えていく。	運営推進会議の中で自治会、老人会、民生委員の方も参加して頂き火災避難訓練を実施できた。	本当の災害時は訓練のようにはいかないだろう、時と場合によっては事業所も一時的な避難所として利用頂けることを確認する。	継続的に地域の方に防災訓練や防災講習に参加して頂けるよう計画を立て発信していく。